葉義外書

脫論二

五

地

2760
8-5

早稻田大學圖書館
寄託者内田文庫
寄託書第一〇五號
第7號
第20冊

門 ロ二13
號 2760
巻 8-5

文泉堂

集義外書卷九

脫論六

一 心友問く云。佛者ハ輪廻といひ。儒道ハいとゝ因の前ゝ。毛
出れ蝶と成て。花ゆとゝ云。しんぜまれかゝるとゝ云るも實ゝ
者て云。也。我友禪者ハ坐禪とゝるゝハ何のくゝめそ。即心
即佛ゝ乃道ゝ有。孫去れ云。最せ皆揚旦とまねゝるゝ悟て成
佛ゝる時ハ二度生れゝをし。我友云。子孫只いゝ所ゝそ先ゝ
見ゝるゝ。死ハ根ゝゝ人ゝゝゝゝ。造化乃真理とゝゝて。ま
ゝ人ゝゝゝ一粒ゝゝ千ゝ。万ゝゝ只造化の無盡義
ゝゝ。ゝゝ出ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。又物乃化生ゝゝゝ
ハ造化の氣ゝゝゝゝゝ。變化ゝゝゝゝ。ゝゝゝ
ゝゝハ出ゝゝ出生ゝゝ。ゝゝゝゝ揚旦の心ゝゝ。

大正7年1月吉日
内田乘子寄贈

乃変化の理を考ふ。まず物より出あり。氣化。形化。卵化。変化あり。
氣化といふは父母なくして。氣中よりなるもの也。彩化は魚ハ入
れ共。魚の出るハ氣化なり。甚か父母なくて生るもの出る
し。又初ハ氣化を父母として。氣化して生じ。ちなそよ形有て
後ハ。形相交りて生じ。是形化なり。四足ハ形化と。鳥魚乃
類ハ卵化也。蒼海あり入て。海なりとあり。きるとの蝶となる
なくしハ変化と。変化の物をなくなるもの。甚稀神のごとく生るもの見出るこ
ハ。変化なるもの。甚稀神のごとく生るもの。蒙稀乃
中より出のなるとハ。海寂滅と言ふ。聖人を寂
滅と仰ぐ。ちなそ。これなるもの。得ざるもの。
なるこれなる我慢して。甚非とする。海寂滅といへ。
まいく。冬まてハ。ゆるとも。宇宙感あしハ。綿入を重ね。飢て飯

と食とかゆ。感なる乃理と。ちなそ。宇宙ハ滅ぜんとす。乃
法ハ滅する事と不知なり。
一。那友云。ある云。坊主ハ。佛法ハ。ちなそ。芸盤
て。次第に多く。滅。佛法ハ。ちなそ。孫ハ。ちなそ。伝ふる者ハ也。今
仏ハ。ちなそ。ハ。佛者のおきるハ。大海の一粒ハ。ちなそ。仏のとりさ
ばく。仏法ハ。滅ぜざるハ。ちなそ。也。ふまけ。ちなそ。答て云。そ
也。則。佛法ハ。ちなそ。仏なる。故也。日本の。ちなそ。祖師。空海書ハ。賢
和ハ。優曇花のごとく。愚痴ハ。鄧幹ハ。ちなそ。玄ハ。ちなそ。数々。麒
麟乃角。ちなそ。ハ。ちなそ。駝ハ。龍の鱗。ちなそ。ちなそ。
佛法ハ。ちなそ。仏なる。ちなそ。ハ。ちなそ。仏法ハ。ちなそ。ちなそ。
一。ひろし。我ら友。禅者。ちなそ。問ふ。云。今の浄土。日蓮。和尚。ちなそ。ハ。ちなそ。
禅者。云。彩乃の糟糠。佛を彩。乃尾礫。ちなそ。ちなそ。ハ。ちなそ。仏

をまつ。神をまつりて仏法の形あるがごとし。法湯師の愚痴なるものは天台ハいく。經法ハ何ぞ。書中乃光の見法を。法華ひれらこと。又ものゝ云ふも似たり。其餘ハいつまでも。禄ハいく。我う宗ハ佛心宗なり。悟りをいく。如何ぞ。我の友の云。人ハ心ふかしく。ハ明らかなる。身のとよハ。仏のうてうきやう。大乘ものゝ云ふ。ひとりハなりもうて。宵つゝ。今ハ人民の賊也。禹湯の子孫なれた。桀紂なり。悪ハうてハなり。糟糠瓦砂ハ幸れ害なり。今の佛者ハ天下の害ふなるなり。米問屋の白ハ。編ものゝ。ひとく。我乃あるが。ものよハ。大風吹くなり。稼ハ。ひとりと。法てよりうて。天下の万民をいてこめくるべ。餓死させて。已一人の利を得んとこゝろ。ぬけのものた。一向日蓮宗れ弟子にて。寺ものとれく。其悪ハ。ものゝ。ものもさとさして。会ハれ功徳を

ゆく。欲悪ものゝ。成佛ものゝ。日蓮ものゝ。ものれハ。法華とそ。ものゝ。其教ハ。そ教もきてゝ。ものゝ。況や一色ものゝ。南無妙法蓮華經と唱ものれハ。全釈ものゝ。ものる。悪人ものも。成佛疑ひなしものゝ。これハ。ものれ世界の悪魔ハ。ものゝ。糟糠ものゝハ。悪負也。禄ハ。ものゝ。ものゝ。ものゝ

爲て財を得ると云ふ事ハなれども也いまだけせよと云へり。禪者面と示くして不言

一佛者問く云。耕也餒在其中學也祿在其中仰ぐてかくいやしきや　答云。義乃原やうとれども。義と行て食と求ること也。天命と云ふことあり。耕ハ食を求むるあたはざる也。天命と云ふことあり。耕ハ食を求むるあたはざる也。學ハ道德を求んとあれども。自然に天祿ありてうへをまねく。利ハ求てはいきるものあるとあり。むりよりて仕ふの言ふ云。ち祿を求ふ祿を蓄ふ。大丈夫佛道よりむりよりて仕ふを云。法をかさめ行ふとして法力あて其日ハまたものもと。海ちあり。法力の食ハ求ふ。佛ハと修行ふ

一心夜問行ふ者ハ儒と云ふ　答ふ

云。儒と云ハ學者の称也。乃至仕ふなと云者ハ。五等ハ人倫の分に儒と云ふ。乃至者ハ。小祥ふ。ふ者と。小人の儒と云。大祥ふ者ハ。學問と名利のこと。ふ者ハ。學問ふ。性命小ふ。産業ハ。ふ者と云ふ。別ふ。學ふ。ふ者ハ。孝子の儒と云也　問ふ。ハ今時儒者と云。文學に長て。祿を受る者ハ非なる歟　曰。ハ。あ者ハ非也。ふ者ハ非ふ。天性文才に長。文藝ふ。ふて祿を受る者ハ天職を食ふ。古ハ。ふを史ともいひ。儒とも云。其實ハ一なり。この故ふ文才のみ有て德なき儒ハ。ふて文筆ハ用をなさ。あ。德ある儒者ハ。ふ。大祿をも受ふ。ふ。ハ小人乃儒ふ。ふ。云。ふと天命ふ。ふ。ふ。

学しいかゝる。色とゝけしく言と辛くこゝふゝて。己り非とかゝむ
ゝるめよ。正とあゝさに。若よの儒をまなゝ〳〵をゝもの也　同理
学実学をかゝくて。人よ教へゝるもの法力り出氣の法力り
よりて。世をゝるゝこゝしを非といゝんゝとゝれ人を活る
ゝ人よ書ゝるゝれ信ゝこゝしと是といゝんとすゝと。異端み
相爭て。武学の外れ人のゝゝ

云文才ゝけとハ史乃職を

不計。実見ゝまゝし理学にもあゝ徳を好まゝし実学と
といゝゝ。武士の家よ生れゝも武ゝハきゝいゝり。農工商
に生れゝゝ者と人ゝ下にをゝるといゝゝとこゝきゝ正といて。
異見と当ゝ。己ゝ文才をゝけゝ。文才あゝゝの農業を
をゝ。言釈切あゝれ。仏実をゝゝと。徳ゝゝけゝた。仏いゝゝはみ
正道を倫して行をゝ。世よ異端の人多ゝ。実とハ虚と

し。虚とハ実ゝゝ。三綱五常の道。天道の吉よ福ゝ。凶よ禍
ゝ。目の前乃平きゝるとハ信をゝて。地獄極楽ゝ云ゝ
とハ信ゝ。ゝゝ。異端乃法ゝ人をまゝいとゝ。大道
よ志あゝゝのハ言をゝゝ。世の非をゝゝんゝをいゝんや
行をゝゝ。ゝゝ人ゝよ私ゝゝた異端
いまゝゝれゝハゝ人ゝ

一両長戦ゝハ宇紀羅人ゝゝ。強し今の軍法者ハ非
ゝゝ。ゝ也又ゝゝ。古の軍者ハ法よりきのゝ
ゝゝ。大将の器者ありて。猶負ゝ利をゝゝ
も勝て。人を殺ゝの害多ゝ。上刑よ服ゝき者也ゝい
ゝ。戦よ強。国を合ゝゝ。天罰よて。法よハ其主人も
亡ひ。其外も行ゝ。法よ天下と成ゝ。合戦の猶負よハ

よりしたがはしめられども世もそだやうなる。寛仁よりきく人
いにしへつくるものなり。唐日本ともいふ。古今のちがひあきらかなり。
今の軍者よハ將乃器なく。徒員ハ利を知べき様なり
なる者多く。時代変革なる故よりまして。戦國よりかれハ。
大方ハもとより軍法者ある人。乃器量ある者を
とりあつめるゆへ。其徒員の理よりまして。少ハ用に立る者
有べし。しかる功と立べきなり。この者ハ。ままあり。庵乃軍者
ハ。大方將の器ありて。ねがまの任をなるゆ日本ハ。其器
なれもよりて。ゆるあるハ害いよ〳〵大なるべし　同心事勝
ハ。軍者のしるもの。信玄ほとんどいくさ功をなるゆ　云勝敗
徒員の利ハ。器用なりしもの也。其上信玄云。大ハ器量
もなきもの。ほとんどいくさ。此ハ得ざる所あるゆ。此の人

につくるハ。ちからぶまりきなり。徒大軍者ハ。道ときりさるの者
なれ。軍ハ上ものあるも不仁なる。なれ。君たるものハ
徒ハ法をもち　同屋人乃ものと学ひ。國をよく治め。公民を
安しむ。しかれ軍法をもちて戦國の時。信玄ごとくの功者よりあ
ハ。まけをとる人きり　云軍法ハ。武屋人乃指揮ふもの也。六藝の
中乃礼ごとし。仁義。右武軍賞嘉ごとく。礼ハ人の品あり。軍法
其一なり。戦陣ハ。人作法正しく。そのわるそハ。なるさる
る也。古の軍礼者ハ。事とよく知く。徒とるるハ。ものの任あり。
今も古乃事とよく学ぶる軍者ハ。事学ぶても。者へ。信玄
意虎なりしのるもの。ものの功者。よりもたるもの。君子の陣ち
欲とるるハ。ハ。ものきなり。意虎も信玄。やはり小せり合
の功をもて合戦をとるもの得ものさるなるハ。ものをいに

もそ況や今ハ人と社うる軍法者あしく行なとけるの有へきや信玄謙虎ハ坂東の名將也毛利元就ハ西將よりも大なりとそれら大勇ありて寛仁なり軍法ハ義經正成乃書風あり其他大よして近代乃及ぶへきなし人ちれ信長秀吉ハ運つよく元就ハやく死去なり同或ハ庭の佐藤孔明流源義經楠正成流あるいハ佐藤ハいく　又孔明流ハ立ちる軍法ハ多し名とかりさ佐藤ハ也其流ありとそ也其の人の時変ハ不合義經流正成流ハ其名將乃上なとせしを其といへ是今の人ハ信よハ多くを多法大疵のおとなるへし若ハ学ハ軍法とハ多くを以ちまた原賢者乃法ハ文武と兵法ハ多くるものなり天ハ法陽也人ハ文武

有。仁勇あり。若の法ハ多くを以ちまハ大ハ乃其意ハをの法ハ多く法也智明ハ多くて時乃ハ多くきとなるなり。こと也。歌とあるとれと。勇ハ行て死とあるまハ仁ハ行て去民乃文無ハ多。義の下知ハ法ハ多くるの文ハ多くること。ちれ也戦とハこのまハ不得已ハ多ハ戦ハ必ハ多ハ正成こと紀の天質ハ人ハ法ハ多くを以て多弟と如ハ行乃歌を多くるものハ法ハ勇ハ多く若ハ多くとも乃ハ法ハ多ハ行乃者ハ法ハ多くハ法ハ多ハ行乃ハ多ハ行乃ハ多ハ行乃

殺(ころす)ことを欲(ほっ)するなり　問(とい)て人を殺(ころす)ことを欲(ほっ)せざる者(もの)と
ハ。罪(つみ)なきものの切(せつ)なる。十百(じゅうひゃく)信(しん)なるべしとさ
らぬ。彩田畠(さいでんはた)とは。何(なに)ぞ。罪(つみ)なきものハ何(なに)
や　云(いう)こゝ不仁(ふじん)乃(すなわち)害(がい)と富(とみ)なる。勢(せい)とつよくなる。和(わ)し
無遠(むえん)乃(すなわち)根(こん)をまことに地(ち)をと彩田畠(さいでんはた)ハ多(おゝ)ハ古(こ)花(くわ)の害(がい)よりも
ものあり。濂郷(りんきょう)乃(すなわち)害(がい)よりなるもの。国(こく)よりも毛(もう)ハ弥(いよ)多(おゝ)き
ハ。牛馬(ぎゅうば)と書(しょ)よりもよく。彩(さい)をとるふよりもの也。彩田
まことこれ〳〵の害(がい)よりのあり。大方後(おほかたのち)の為(ため)のことのこと
のなれ。軍者(ぐんしゃ)よりて。無遠(むえん)なり。荒(こう)暴(ぼう)の代(だい)なり。
き罪人(ざいにん)なりといつて。荒(こう)暴(ぼう)の代(だい)よりハ。やはれものハ。どの所
くらいなりとハ罪(ざい)をくきやくもおしまるけていつ(ず)なり
一心友問治国平天下(いしんゆうもんじこくへいてんか)　云(いう)孟子(もうし)云(いう)諸侯之

寶三(さんぽう)土地(とち)人民(じんみん)政事(せいじ)。寶珠玉者(ほうしゅぎょくしゃ)殃必及身(おうひつきしん)傳云(でんいう)寶得其寶
者(しゃ)安(やすし)寶失其寶者危(ぎ)といへり。後世(こうせい)若(もし)たゝかひ。さ
時代宜(じだいよろ)しくとも。道(どう)を不学故(ふがくこ)大法(たいほう)を不知(しらず)。文学(ぶんがく)
とぬ。ある人(ひと)も。経書(けいしょ)のとにたゝく。遇(ぐう)ぜ。今日(こんにち)乃人事(ないじん)小用(しょう)
ることを不知(しらず)。道(どう)の行(ぎょう)ぜ。人民(じんみん)の安居(あんきょ)する事(こと)。其(そ)器(き)を
ありてを。大法(たいほう)を不知者(しらざるもの)ハ。行(ぎょう)ぜ。細工(さいこう)ハ器用(きよう)ハ去
ゆのうてを。規矩(きく)縄墨(じょうぼく)と得(え)る。時(とき)ハ。屋(おく)を作(つくり)。方円(ほうえん)と製(せい)
ふる。ものこゝハ。ものこゝ。大法(たいほう)を知(しる)といへども。其(そ)器(き)を
かけ。ハ行(ぎょう)ぜ不能(ふのう)。拙工(せつこう)ハ縄墨(じょうぼく)とあるこゝ。其(そ)器(き)
あり。を法(ほう)を知(しる)も。人情(にんじょう)時変(じへん)ハ達(たつ)せ。ひろくこゝ
る不能(ふのう)。ものこゝ。不通(ふつう)ものなり。其(そ)器(き)あり大法(たいほう)
をもつ。人情(にんじょう)変(へん)ハ達(たつ)しても。時(とき)と得(え)ハ。行(ぎょう)ぜ。

鎰基あるしいへども時と待よいはるゝと智恵有しいへども勢
に乗よいはるゝとやいへり後世の人政事の宝とするものを不知
ゆゑ法度を出とるゝゆゑ三乃爽一を
なすに困其困よりあり故古代ありても人民おけるいはること
不能人民皆〻も古代かきれいはゞ常人ことゝ不能古代人民わ
ずかに政事よりゝさしいはゞ長久なれば政事のよけるいはゞ宝と
なりよりゝさしいはゞ害となれり君と大臣との仁ありて情と人
きるの第一なり 同後世君主と常人よりとれるを
わが文学あるものをもちて乃をもきゝ給ひ人下の事を
ちゝめさんゝとあふ方〻へ横目と思ひ世ゝ乱れ治まる
をもきらせ人いやしき者の人道ゝなる式をはらゝきゝ
ちゝ人ゝ方乃物を使せるゝ人物を使せるゝ政

道よりゝさはい行なや 云ひゝしゝ学者除文ありとい人
ともゝ乃学と仕事とハ名別よりゝ一致よりゝ者
といまゝきりゝ学者有人ハ知恵を敬よ庶の法乃行い
ゝき勢いと知て勇い法りゝ人れもすてかゝ学乃
なれゝ学ゝ人ゝ知恵を知人ハ古の法と法この今
に行ゝ法ゝるゝとつきゝ人ゝ人ゝ知ゝ人ゝ行度と
人ゝ学ゝ学者乃ゝ敬よ行ゝ不能下に居ゝの勢
ひゝ人ゝ知ゝ行ゝ人ゝ学ゝ乃ゝ人ゝ下乃居者ハ下乃
情を知ゝきゝ人ゝ肝要のゝ人ハ不知者なり学力あり
て道徳よ志ある人の下に居者ありてハ政のおゝきゝ人
情ハ不知ゝのなり毎〻人ゝ民間よりゝ地方ゝ地方をあけ
て歌代那を行代官ゝ行ゝ人ゝ事ゝ人ゝ道よ

志なれとのハ民間小そこらあるゝ民を治る事ハ古しさ法
者なり。世るれ云法法なるもの。おしれ益ハあまてもの人なる
益よハ多〳〵さるなり。いやしき者の人道をしらぬ人情
いうなれとのあり。市井のあいハ我得さるをもるゝてハ
そとさる人ハあるとく学ぶ人ハ人をもれて後よハ害ともるる
学ぶさるいハそこまり。あるまてそもれるとくれ深愛なく
其の道をもてハ何事もあくるに御行て益よいるる
非とあり云をれるもあくしなれるる多し

一心友同小郷の法たハ公事訴訟をあいるきく治り。郷要の
公務裏表い　云国郡道を先ふる久し。故ニ士そむき民
るるる。古の罪人ハ今れ盗り人なり。悪人を穿鑿（センサク）しるハ
云事なるる古ハ法なる人ハ。あ法民間乃士のるるハ。ひし

ひしき悪人そ。そ乃も罪よりあくるるハ。しと。西そふ人
多くて。そ人ハ稽の勢なり。トれ稽をもふ多くハ善人
不善人ハ行さるる法之。そこ行人出るるもの。生るる者ハ念
事きハまれて非道の者ハ生れそ行山人ハ。教
訓しそるとそひきなるなるなめ変そ。善そ非道
の者。行人ハ西るるるあるハ。不得已して罪とるるる人
し。悪れきそ出るるく。悪人をもれきはハ。罪をまくしる
ちしい行るも宜人て。今の世乃ふるふ。悪人多きそれと。
悪人の罪をまくそれて。悪人ハもとく多なるものなるる
故ハ。古法ハ人ハ法ハ。死刑流罪ハ。行るるはハ後
こハ学ぶる。見ゆるそ。そ行ハ人ハ行くおそれる者。
古人れる法の法をそ。ハ罪ハ重とるるして。悪の数を動む

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初学のさわふ書籍あり。百も。十合幼よりおらされハ後学をあやまんることをおそれく出ることもあり　同義の学問にて。志のとうそくなり。同学にして。ひらく成る者稀多なり。あふ出ることハ。四書大学を修して。ひら様おももとく見わたしても。志とかたく人たる故よ。結果の共修学ひらく後なり。天の世民を生ずる。先覚をして。後学をとさとしむる理なり。人のまことと解す。邪と正をへき言れ出るハ。天のあるハ所なり。ゆえに其言伐絶し。其書をうつして。教子の英才をひらくさるハ。天乃罪人なり。毎〻人と一国乃人民と共に。天孫をうくひらくの人をの教万乃飢を。とうりさらうこと。学問書も出る者にて。

乃ら物をなしたるもの事をとられなり。此の学問とて。学問の者代乃ならして。流ひろく異端に陥り成ふ。ふしあり。世間ふ書籍の学術をたくされ。罪人より。帰しなり。第一ハ。学問乃学術のまことと解。第二ハ。世間の唱へあやまりとひらき成るなり。あまりに人情とたとうるも害を加えるなり　云ふ。愚乃かを書も。学不久字れ者の。名利支丹より甚とハされぬ。乃運とる人結きハ。百歳の後ハ文学衰ケ。人乃書籍とハ。ふる人も。なく。二三十年代間の脚とたとうる。今と経伝をとる人のさめよハ間ふ。やりもく。学ばれ者のさめうりなり。

一学変問。ひとり。儒学公変きりとと人る法あり。人乃

物をうりてかへさるゝ乃理なし。撰ぶかつてかしこまりしきの物をうりてかるゝものあり。其價の高卑是非ハ其物の正邪ハ如何ぞ　云理屈をいふて其價を正邪ハ如何ぞ世の勢をいふものハ其理屈より情義公事きく強いさるハ情勢ふあるゆへ。天下ハ天下共天下ちからといふて金銀米穀ハ天下ちから天下ハ人のあるよりまさるものなし。一人乃私とへきにあらず。もし出るハ人ハ人ハ一衣を着ハ一物をもちひ。金銀ハ貪賤富貴乃命によりて。ちからを出すを代とする。仮令るものあるとも。今日已ら有ることハ明日ハ人の用ゆるなし。天下國郡も又ちから貧ちなるものハ富ム者より奪ふ。神ハ人とへきとをひくかをたがふ。ちから不足なるゆへにてかつてちから故ふ。其元利を出をハいとくを不足してひとへとてあり。かくきものあり。又奢て用ゆるゆへ。情勢ハ富てかくなりてかへさるゆへ。ハ者あり。又あまを富わく。神ちから乃とハいへとかくかへをゆきんゆ根をてかるゝものあり。やう乃ふくゆゑ。ちからをちからとして。求ハあきふけるものなり。も罪とそしるとハ。理非ハ去ちてるのさいたもちからへ。富貴をふ吟味かくきちからハまもれて。人ハかちものハ利をうるへきちあるゆへ。ちからをうるれとも。其財不足不義ゆてあつまれハ。散とへきゆえ到来して利ふをうして先ふりのあり。又さをを不義乃あり。利ふをうして先ふりのあり。又さを不義乃あり。利ふをうして先ふ。天物を久しくとゝまるゆへにせしとゝまるゆへにてかつてちからへきゆえ乃ちく。損をへきちからくゝとをあり。これ財用の流行を取

勢なり。殆れうれうまりとなれて。無量のこの情弊
となる。家中へハ主人よりかし。百姓へハ代官かしうすれ
ハ。そこれハなるに。出てハ。るハさるるハなりてぜんら
ゑ。ゑさハ。家中百姓とも小困窮して。後ハ乏ふまと
いらくなりのなり。ロ海困窮とハ。大福ふかく。後ハ。
貧人のなりゆきひしく。国郡も衰ふるめなり。故ハ
貧富ハ命分ハ。主君まのなりをくりとして。始ハまり
とへ。主君ハ武士乃不得已の罪とそ。微なるとれみ
ふとつきまのハ民の困窮を。神ハとうをし。大ハ
でハらく及へくと　同ちくハ君ふもかりてくへくるる
すわくしり　云君ハられを神ハふをくるのなり。ま
乃分ハとうるく。出へ。よくく笑と安して。困窮ハう

られて。君と名国利害ハうくされて。備ハ為ハ。義不得已。世
の習ハりてかを大ふとくへきを程ハり。国政ハ君子乃為
かくとふ人を治るりのなとハ。ふ人乃情し。世の習と知へき
すの所要なり
一学問道徳より初く禅家妙奇物をきくへふハ。ちかりふ。ふ
うを。元祖乃彩色。神通妙用とハ。ハ何とわ　云是も
真国人よりてかれふ。石程殊格なりとうをくへ。天竺人
とハ。性質ふかれて。彩色ハ大悪大悲の色を。ふく。衆生の色
をやわ。ふ式ふくへんと。幼少乃中より式ふすわく
なる方後ありふれ。天竺人の黒蒙よりれて。後世の仏氏奇
特をくへハ。彩色のふくハ各別なり。人ハ信をもをくを
ふかりとふれて。古人ふれと利ふありとくへて。彩色ふ

心利益なり。釋迦と中國の聖代。我邦の上世より流通ハ。佛法
をうけんとうけんハ出家して達磨も中國ゆく。聖學のごとく
まし時ハ教ゆ。直指人心見性成佛乃旨と教
ら教ゆ。聖教神道ハ。治まる者を我法
ゆ入心の我心ハ者人ゆ。同じ法なれども。日蓮ハ他宗と
なるべく。我宗に入ひて。淨土一向ゆ彼を非ず。
己と見ゆ。法華ハ妙法と言ハ。言ハ人ハ。
其我執執行ハ。諸法ゆ。利益のなしさ一向ゆ
同後世をいのゆ。ゆゆ。悪人ハ。ゆさまゆさんゆ　云天
堅ハさもあんん。善人ハ成仏し。悪人ハ地獄ゆ落ていゆ。せめて
可あんん。今淨土一向日蓮宗の教ハ。いゆゆる悪人も。報恩謝
法花をそのゆハ。成佛うゆ。しゆし。善と退け悪

とゆ。ゆゆ。ゆゆ仏ゆ人ゆ。悪とゆさしゆゆゆハ
さ教ハ。仁義礼智ハ天道なり。人皆固有して生ハ。故ゆ悪人と
いゆゆ。ゆゆ。ゆゆ。今佛法の教を。ゆゆ。ゆ天性を
ゆゆ。ゆゆ。ゆゆ。ゆゆ。磨ゆ。ゆゆ。ゆゆ佛法乃
ゆゆ。ゆゆ。ゆゆ。ゆゆ。

つ。武家の代となりて後は。人民は教ふの道ふかく。さて爭鬪
とゝまさしるを以て。とゝ。とゝ。とゝ

よ仁義を云んと欲と。故よ人あらうひと求めと。こゝ川うち
ちゝうと。人の仁せうハ人れうこうひあれとゝもあり。うゝ。
我仁よとしゝ。ゝ模ゝ。ちうひと。ゝ仁をハ。ちゝハううゝ
ハ皆仏ゝ。ゝ。ゝよハ事ゝて。仁ゝ仁ゝ。ゝ。ちゝ
ハうし。ゝ。一言の仏をゝゝ。ゝ。ゝ。ちゝ
くゝ。天理よゝ。ゝ。ゝ。慶よハ。則神罰ありいんとゝ。
鬼神ハ福を禍淫ゝ。ゝハ仁義礼智信より大なるハ
ゝ。悪ハ五常とゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
一仏友問。程子云。老子曰非以明民將以愚之。其亦自賊其
性矣と。佛氏も亦云。智恵と教せゝ。剎那も教せ。
ゝ。地獄よ入ゝ。失乃ゝ。ゝ。浄土日蓮一向の宗門。其言かハ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

明をもつて頑愚をもて教よいあへの愚は直あり。今の愚は偽のゝ

一心友問聖人おもう給りゝ井田復とへきや　云聖人れをも給りゝ。大道復とへきのゝ井田あるゝ人甚一時の利よりして制し給へつゝこれその法あり。いまへと今と時勢大ゆ異あり。古法の今に行へうゝきもとゝ多し。井田甚一史。ゝ小日本の地形よ相異をもとゝ学ゝ者は聖人乃意を取ゝ。あゝふよりて聖人の意は政あり。仁政はいつゝの国よゝと行へうゝゝる時あゝ。今乃時不位よりて仁政を行りゝ。大道の復をもなるへゝ　問日本の地形井田よりたよつゝ。あゝたとのゝ為へゝも。筭用つめよゝ時は。あゝゝゝ地なゝゝとい。へゝゝ。りゝうゝにても地の高下廣狭不同なる不

ゝゝ。筭用ゝめの井田あゝりゝといへゝゝ　云民の田地を奪ゝゝ。井地ゝゝん。井田乃実を失つゝなり。又民よ井田乃十一をゝゝ。武士ゝ知て私逆出ゝ。ゝまゝ民れよゝゝゝる新地よゝゝ。井田ゝゝん。聖代乃法をゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ。筭用ゝめは詮ゝ。ゝゝき井田をゝゝきゝるなり。りゝうゝゝゝゝ。先ゝゝき井地をゝ地形乃井田よゝゝる不ゝ貢法あゝ貢法は井田の形ゝゝゝ。実ゝゝゝゝゝゝの。ゝゝ。井田乃実は十一なり。故よ井田れゝゝゝゝ地形ゝゝゝ。ゝゝ十一をゝゝゝゝ。先井田ゝゝ。ゝゝゝゝ井地よりか。ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ

つまて貢法をなすべし。日本のいにしへ、貢法なりき故に其名殘りて今も年貢といふ。なりわいもしは農業なりて士民ともに軍役民間より出すべき。故に貢物十一也ともいふ。公用不足なし。井地八家と一組にて死生相使ひ疾病相助け憂難相救ふ。軍陣あひ受けまして一人すでに多くの一人なりとも八家一人なりとも八家一人なりとす。國用軍用備はるべし。文武車輪のごとし。農のいとなみ疲して学校乃設孝弟忠信の教ありて立倫和睦し。礼楽弓馬のあそびなり。風俗淳厚なり。風俗よろしきのゆえ。身祓をやうなり。広野よりなる。川沢よりなるは農の害と成て。武事に鍛錬せんとなり故に軍士は農業より法よりて

なり。農兵となるべしとの法なり。十一乃貢法行はるる時の世治世よい士ゆるやうふ。民困窮なれば軍国よい士民相和して勇猛なり。戒めなくして質素なり。なりわいの人々今のなりいしにくい賢君良相ありとも俄よいかしうしと仁君相続おこりがたい業をはじめ続をなすべし。士民相和むやうにすれば治世永久なるべし。

一。篤友ふ曰く。支方我国をもるべれば。行の用ふも立法いし。武士ばかりとわすべし。知行をわもしは支方達なるべし。篤友答て曰く。支方家門乃者よあるべしなく。民よ不通なり。是をなく。軍用達を使きるべと知あり。支方常に云。事あるは使ひ人うけて二十人あり。百姓とり出して。ひと二十人乃足悟あるべ。

大坂陣後豪傑のやうなる事なりしが。小屋場までも供をせ
(さうら)ひ二陣ハ天下一同の時なれば。歌ハせず一城のくるゝ
まハ京都百姓等代官人地頭をあるかうらうとて新
番よりかゝ。為小原の来れ私を。そも民家乃中法
よりれ乱乳乃ことなるあるゝ。者方三十人の者戦場へ
ハ一人もなきよへうに。節用あり。代をかさねて供ふる
もの幸に公用あるゝハ一人も供をつきうがしよハめるゝハ。
小屋まても行者あるゝ。為あるゝ飯かゝくるものゝ。小屋と
くり。馬をうふるものゝハ。勇氣へつて。血祭つまくゝす
ひるあさハ。ゐる供ゝ。ゐるとを。ゐ乃を。ゐくハ
うとゝあるゝ。ゐるゝ死をいさゝ。ゐ供一人武者
乃品ゐ。これ死をゝ。ゐ供盗よあるゝ。ゐ供

ハ常に供事とうゐくゝて。ゐ乃を。ゐ供ゝ。ゐ者
方を俄ゝ。ゐ乃ゝ。一人武者ゝ。ゐ供ゝ。ゐ供のゝ
ゝゝ。ゐも叶へうに。非者とゐのくるもゐゝ。ゐ乃
ハゐけくゝ。ゐ供乃ゐ乃ゐ者ゐゐゐゐゐ。ゐ乃
名とゐゐゐゐゐ

あ〻百姓のく。耳ふ立(ハ)てとあさけること。百姓ハ富て奢
といひ。餓饉(キキン)ハ年ゝ民よりうへ死あり。なをを
のそむ。男女となく。乃絡よりうばひ。ぬすみ。
つんといへとも。かへ〻て者をもみ。先食をて子をす
きをうくまれ。不仮とハいへとも。国を那を仁君して。
うへを助き治ひ。ものハ根とあり。ものと食ハ
といへとも。先食より出るものうくされ。百姓たちくいゝ
まもなく言ふ。仮とハいふ。民ハいかれるあさ
うえ乃まてをかくゝまるんきのふくまて。同し侯
百姓をいくえ者も。那まの代官と成く。国よりの
く民の困窮をうくハ。あるれしん出来てひ〻れ。と変
をもうくえ多くれ。情業ハ。那月人乃屬ハにゝくまれくハ。

わき故よ。不仮とハいふ。是非人情よりうくも。是非人情よりうくも。
とうくうり　云近年も民の困窮きハまりし天罰り
てや。世平出系。国君国と生ひ。家中れ者窮人し。非義
よ及うあり。若戦国とあるハ。国ハ困ひ妻子ハ困て
後。日本百姓よりうけるあり。其うゝみ乃程とうるへき
のゝ。国君武士とし。身をもし。妻子に非義とせうる
ものと。武士ハ。愚の至なり。武士ハ常の禄あるハ。年ゝ
年ゝ。ありうくも。非義なりうくいふ。ありゝく。餓寒よ
ハ。百姓ハ年中辛苦して。作出しうるものとのうく
を年貢よりうく。其ハにうくれして。未進とあるし。
催侯(サイソク)をつもると。妻子とうくもう。田畠山林牛馬まてとも。
うくもてうくれハ。其百姓家と。ありて流浪し。

方なれどものハ。元金とまり。辛苦く村里ふるさまり居
とゝ人とも。五年ホハ餓死をまぬるまに。高きものハ。
有無貧富をもこゝに。あつめ貧窮（スヽキ）。本馬なとのせめ
とあるとゝ。こゝなりて。病つきて。死し。或ハ病者よりて
用にたゝるものもあるとも。いつしるあれハ。川さへもあり
と。五年ホく。百姓乃迷惑とるけるハ。田地山林屋
敷等とゝ。ホに買得なくて。富人ハいつくに代よりて
くなるものあり。村里かけくくらるくきやくくして。免と
されど。富人を。百姓よつまくとゝホ免さるてまと
く富有なり。此富有乃民。ホ十家百家れ中に。一二家有
をなく。百姓ゆるやうく。奢（タキ、ソラ）と人ふ。ホ。五年ハ
藪（ヤブ）をなり。本の実なるとをなりて。何とその仮義事

に。酒者をホるるあり。大ホ多れて。一村より一人二人
つ出くも。城下の町とて。ホ酒ハ多きなりこれをを
みくも。百姓ハ。ホくく人有やうホ人。彼も人なりくやうの乃
るまとも。るくくらやうホくくふ人ふハ。あまり不仁なり。去
よりあるにいつるホ。ホよりなるまて。労苦して。武士とや
しなくふ者ふれ。ホ酒者ホ。ホるをとてハ。悦（よろこ）
なるなれ。武士のふくなりて。いやくホるゆ人なり。ふ人
くハ。ホ少しなりふ。ホひきくとホ。ホくくなるとゝ。
ホとなるくくくくみハ。ホくなるきるホんに伝いるや
きゆくなりかけくき事なくとや
一学友云。世の好ふくふものハ。ホ非ホ也。一国の中。何乃
用ホもなくくる者。歌の仮とて。ホ行を取。家人をいるを。

百姓を大くらけ。偖よ俗侵人といふ者のごとくなる者。
身ふをそこうこうハせあるくもあり。君ばかり国家のため。害
にたちるものも。和をうりて。濇柔なるものあり。陸ふるき
士あるといへども。民間よりかるを恥くよい出さるものも
かし。窮人多ハもてかるへらるもあり。主人かへ（ゑ）
くかしいくもいつしかをるを成こと。陸をうこと称ふ人も。
あさハさるものあり。同し横よ身ふこうこうふハ。肝要も
有くかへらるる也。一国二国のくにの大方ハけし
云者よハ天命とふ。我より改へいこしやけ。
者ふる人乃不佞ふ多ハ知あるもの。君よ勇知あ
くしけ。ハいまとに。身ふこうこうるものも。新出の法ハ
てやうかいを居ふとハ。包荒乃仁あること。甚偖侵人の

こと。家人百姓をふ新しるるハ。敵かけをハ。
乃害よりるるものハ退くへし。云人あるハ挙用ゆへし
一舊友云。彼小人を心ばいとなく。実ハ乃敵ふ。
とかこうるあるくかうへ。天罰そけ間ハ。敵ふ
ふ尾あくなりて。氣味よ多也　云ふ小人女子乃ふ
なり。彼ふ弱をなく。虐強を強りあるるハ。彼ふ恵
あること。付よ甚恵ハあくしいま彼ふ恵積ふ。なりあを
ふ人罪せられハ天罰をふの附いるれて。なりあるて。
仁家かけ。廃亡ふるハ。小人乃常ふ。人ふくあるれむ
へ。甚表よのうてくもんハ。彼よ同きふ多人へ。我
場よかしく。敵折あを拾ふ。我よしいあるハ付へ。を
ていに敗軍ふくふ。あるる者の背をきり。義人を求ふ

さんハ君子の軍にあらず。人を多く殺しうらとく。軍ハ利あるふかしず。勇武知略のなきとなく。欲とうらひき搦をし。其勢よりて。彼これうを死をんすハ。不及泥地。欲しいふ。ハ。力かうへ。よひしとうるわさハうる去ハ。助くうるしんし。いるしやん人のよいをとみくわをとしくしんハ。ハのさ所きるるうの。京石をもうれまへうる石性ふの。地獄とおそれ。佛を法し。念佛経目よりかうのるとうくさうるうるうハ。年来てあり。地獄の色うるそのかうあるとうて。其妻るとくるれうる。武ハうるふし。殺しかうもうもうれも

一学友問。我舊友三年の喪をつとうひして。心意へしこれもるうる。平日の心よりうるを。入病ならうるうるうる作り

云是うかうるるるん。喪の名よりをく。世代のうるんとすうるうるへし。事かてけうるをハ。人の子あるよりかうるるもあうのうをきうるきるるうる。三年ハ久しきうるれる。喪といしく退居をハ。其中ハ人も与うへし。其まに出るうんハ。月日をを立まるきるるうるうへし。それ。つうへの君るれ礼を行うるハ。人の相逢てうるるへきうるるとうるうる。日本ハ小国ふて。地氣うるるる。人の根氣つよかるるるるハ。其うるる教百年のるうハ。一度うるるる。命しい志あうるるるうるるるる。教世ひしうる氣をうるるるうる。百人ハ一人をうるるるるる氣力あう。喪を作るしうるるるるる。徒者ハうるるるる

ゐんこうれてゐ所へうつ出ていて。朱子
一学友欲きて云。藤樹の学ハ陽明流乃学と云て。朱子
にそむきたれ乃ゆへ。ふせ〳〵人多〳〵ありと云た。そもの
云ゆへとの〳〵藤樹乃学を称て。教百人とあり。しかる
わり。又法大名の門より行く〳〵藤樹乃学流と号し。命逆
ゆゑ出来ること。二三ヵ所あり。ちなみに大義の寛法。何乃
とうあるか〳〵。其ゆゑ。教学ハ小国窮と。甚敵
とこれわるに知人ゆ〳〵。これ何の罪ゆあるや。不孝ゆゑ
孝子ハ。ちり。不忠ゆゑ忠臣ハ。ちりうるハ。ゆゑ〳〵。
ちられた世の虚説よりて。釈ハ子といまゆ。君ハ臣を
ふせ〳〵世乃学をとくうゆあるゆゑ。釈ハ同志の〳〵法
方とかゝんで。二十人よハ三〳〵ゐ法云の学流をて。せれさりを

それ〳〵ゐ者ゆ〳〵ちりゆ罪あるものハ。ゆゑ。ゆゑて罪
なれ人をうるハ何ゆゑ　云ゆ徳を法じるゆゑして。学
法し。不徳法学行て。南時ゆ人ハ用ゐ。ざるゆゑ
て。教学相長をハ。学ハ法きふ行く。徳ハ入ゆかるゆ〳〵。戒
ゆく法を問ハ法ゆ〳〵。学ゆと法ハふくせしめんゆの。意
命ゆゆ人〳〵。長命に意せさんゆとゆゆの〳〵
一ハ。この人。年ハ衣服飲食。家屋器物ゆりてしめて。
方ゆゆとゆぶきく〳〵民をゆ〳〵ゆ。後世ゆ年ゆれたゆ〳〵
事ゆ〳〵。用ゆゆれ民ゆ〳〵ゆ。ゆ人の技技ゆ法。
武ハ其ゆ成切米を減ゆ。ゆ〳〵て長男の衣服常ゆ変ゆ。
ゆゆの〳〵ゆ〳〵。一門地門振新の仕来あり。国郡の立ゆ云
民ハ。部中ゆ〳〵ゆ〳〵。民ゆ窮せしゆ。礼用軍用法

官を第一とすべきなり是をハ国家の私事なり之を
人ごとに同じく通人とのべく寄合く飲食衣服家
屋器物等の費ハ人を多くなるべく公儀ともこの故
に民ゆ疲弊して年に荒廃を以て民間日々に困窮し流浪
人年々に多し人を扶持するハ禄米を減じ民ゆ
飢るハ多くなりぬれとくにして一時のさうをとり免
食をもとめつゝき事なりやがて行きとゞまれ
ん義公のゆ
一禮ハ治国平天下ハ大切なり礼なくんハ礼日々
にすたれ世乃人ハ礼を義用にして実義乃分
なくなりぬれのものとなりて立身
なるものハ礼譲日々にすたれて相ゆるゆ乃
なり妖怪ハ人ゆ大なるなり天ゆ出るハ天とい
へども人ゆ出るハ天を去るなり一分己を利
するハ一分人を損ずるの悪徳なり
なり

集義外書巻九終

文泉堂

集義外書卷十

脫論七

一心友問。帝堯許由は天下を治らんと志ざしたりし。許由は狂人なれど。其治道大簡なるべし。親の喪をもせず。祭をもせずとかゝれし。棺槨をかゝぐ者略なるべし。聖人の禮儀政刑を。絶ふ近うしんぞ。又狂を思へば聖人なるとゆへゆづりを受て天下を治めんと思ふ如ぐ不地なるべ。禮樂政教も。聖人の糟粕なりとそうくとそうく。神聖の事を不知と久し。誠のことをなき。禮文法令は次第ふおこり易し。もぐ立かたきは誠なり狂者は情のまゝ。禮法よりつゝれども。質素にして かざりなれぐ。言歌よりて求形し。賤義し民集つて。金銀珠玉

為物とたゝうとせされハ何ぞそひうむぶふをのなく。おゝぬ
と呼ぶ事なり。夷とゑんぞれむ夷狄をさゝてゝむぞ。扨狄の
害すり相なれハ。天主おゝふ教せり。おゝ上一世れ王治也
帝堯ゝ古の王治と称しのふ故てゝ許ゆとゝゝり。

一心友問也の学者のゝてゝハ貴老の道学ゝ老荘乃乃ふ
近ゝ。法ゝ道ゝ教ゝ教てゝ行ゝ。いゝゝ人の法乃。
とふ事ゝゝのあるゝ。其格法の中ゝ。道とのゝゝ異を
ゝ。老ゝ老ゝ聰明乃質なるふ。天端ゝ為行ふ。ゝてゝ事
也。我学ゝハん。世乃明ゝなるゝ。ゝなりとのゝ也　答云
まゝふゝ分なりひゝん也。今の朱学とゝゝん也。後世て
道おこゝ天下平治せハ行ゝゝん。ゝゝゝ道学ゝ任せ
らゝゝあゝとゝけハ。何ゝ事ゝけ

ハ。ゝん。帝ゝ。ゝん。ゝ。ゝ。ゝ

帝わるべきか。若云我実乃法をよかれとおもふ人は繁昌
するといふは。仏法の驕奢をとりもちのまくはるんたちまちに
今乃繁昌へ仏法をいびの因縁なり。百年のあひだ今のまま分
へ。三分一よりなる事有べし。よく此事をふかく思ひ慎の必
然なるべし。しかるときは先ちやうて長久か
ほべきことわすれ〳〵奏と天ようとをうまてうけ斗あるべし。すべて
人乃ことの繁昌をは仏法の実れそ先まよかれと
ゆの事ハいろ〳〵なところよ処あり
一学者云。僧こと者。千人乃九百九十九人まくハ身すきたこと
出家しはるを。其実乃人の坊主ハ海主なるを。法も去ひよ
うおく成べく。公方〳〵までいたるべく若をすく成行近年
ぞうるとをうんよかうとて。出家の身すきて沢山なれとも仏

法をとく。右利支丹乃法をとあうぼせんさ九たりふ
をなくこの事おのの事をもとはれぬ。のちくせんをき
事ふをひて。法人をもとをれ法をもとをの信
ハ。法人貪ふをもとをるを先をを。寺をたのしをいれはあの
ことをのふ近りをハ。其四九世ふをなりわを。三十年乃
ちハをを十分一をのことをはしりをねて治世乃時ををりハ文
学ひろを成べくをの眼わをはをハ。誰ふ仏者の言を信せ
んとをり。決清ぶんをして。先をまんをく。近年の繁昌ハ
をんをくの者ををを百年の後ハ。儒乃真ハ起して。天下大
乱なるハ。をもなくハ。右利支丹の事をとなるハをををを
をを。仏法をををををんをとをひはり。若云道理をを極
しはりね。吊をひをををを。近比日本乃水をふ

ようもの。山沢草木。人物の情と。殆とくんぬる。易学の
者なるべしかわるねうん。長久なるべき道理あり。仏法ハ
不仁なるかゝるべきことを。易学なる処のもとて。日
本乃水ちゝ相違せり。この故ゝ。子解并ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ也。近年ゝ仏ちんの斎ゝ。仏法のいのちなり。易
学と失ひ行れ。ゝ。ゝ。天ゝ。ゝ。すい
ひのとくなるべ。ゝ。ゝ。仏ちゝ不仁なるこ
ゝ。易学一門ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ道の仁政。易学なるべ
いゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

流の流れとなるべし。易第九卦に履と云へり。和やすく、ちさうひやと
さ。人道と行ふ事なりと。この学者も。儒道と異端とする
とくらいうれえ。仏と退るとく。助言の学とちがひそれ
仏者乃不仁と。儒者の理学とたふ神道となみすらふ。
一也。その中より。仏法も水ちふ物の処わり。儒法も水ちふ
意也。先と仏法もまつ。仏法を学ぶ人。儒道をおこなべ
くして。儒乃おこらず。仏法ぬすんだ。法よ吉利支丹乃ふ
うをれ。さう。強い神道を儒道とちがうとちやふ
らく。畜生道となる。禁中をなくなるべし。天地やふまてる
まはおるまれん。後世と輪廻とをくいつくれる。吉利支丹
も後生ねがうて。仏者よりもよりも地獄をちやふ。仏
道よりはまされり。仏道の力といく。物をくつさ事かて。

今の儒法。天下安乃政たとなるべくされい。法よ流と
成く。吉利支丹乃ふ失るべし。これふもくいつり神代
乃道法とあるつ。世代乃法令とりんと乃人情付愛と
つまひくして。化育と助る乃大道ぬ。信存ゐうて。法と
先とれて。民乃偽とうらひさ。善事とおいとして。祝てゐ
うきれ。人欲生ぬ。それ礼法も。人欲の流也。大河の水と
ふ住居すう者。流堅固なれ。世金し。志ふ源遠
らぬ。小河の水乃憂也なさ地よ。流修多不よ大水せ。民
の身命と。畜ふ田畠也。多の者流乃者ふ。ちふ乃へ
しくうつ。大水ぬ。て地乃生存し。然中周乃代も
て。流ひらきくこ乃。大平安事の時運よ尚生り。天
地乃物とすることかざるとかく。財用乃多おく水大ぬ。

し人民大に富くなりすぐる事れし。故に驕奢に流れ
情欲おのづから多く勝れり。聖人是を憂ひ礼文法令
を作りて、いろいろなる礼喪祭の式用を法いやしく
欲と物せさせるなり。其時に当て、いまだ礼義
まことなどざるし事なり。後世ふるく。政令道を失
ひて、人心正しかるべきもの。此時の家不順にして地の利
を失ひ、貧しくすくなし。貴賤分をこえ事。士民より事
をげくしていろいろなり。世故に多く欲にたりとく。情うすく
なりぬれば、其国にて、ぶ行ぐ。況や他の国をひてを
や。近年に至て本金石ぐふ姓にうくなりて人心病
氣安氣なれこと也。其上に富ふ貪しく。世に事をこ〳〵いろ
しくて大に上世の法を行はんや。とり学者。豪勇に富て

いろいろのこと。武士の貪りて朝夕のいとまなきこと
のまこと。其に法をとりて行ひ、我勇事をとる
これ。氣力にまかせ事をなしと事。をこのはれ富士
ふさしまこと。おのこそ所の者もくなり。乃大法乃こと
やうにて。衆の為ふるにぐることろ也五倫の五典十義に
もとなり。一文不通の人にいたること。世の実に学者ふること
ろ。天ようこの処なるこバかり。礼ハこれとかざりもをを
助ける。の也。時処位にたりて。衆にたふ行べし。ゆに天
地乃為ふ立ることいとり。と時用乃礼
と用く。道と行ふんとこの。自己乃氣質の礼ふ行ふ
処乃ゆに。其上ふ富くいろいろ氣根をとるる者とあり。
名根ゆくして養れと求ぬ。なと者とあり。ゆに人こと〳〵

情のうちなる事ハ天下数百家の習なれハ人とうる事
なり。真実と思れいつとしべき人よりあるさる者あり。なんやは
何多れとも処なき人よりとひてとや。おれとも世情法の流
をもとめ世ふ多四る事わるいかをとられた。世中ふ多ふ
ゆくうる人の見各氣質乃近てさ処とも。おとしくうの也こ
とわさよ情のこつさ者ハ。日蓮宗とあり。高濱吳風なる
者ハ禄宗とかうといふ。この禄宗ハ法をたのミ禄
くうるうさ流なるく孫し。日蓮宗乃世よりあるとく。一流と
成くあんのみ流仏者とあくしこ甚しといとも都て
仏者と云つさ不あり。佛者ハ戒杖乃吳獨おくこ。日なれ
水ハ時節よりお変の処あり。朱学ハ理といふ事ハよくてを
水ハふ変せぬ事多し。其上とも朱学ハ。聖賢乃法と

月四〇くいくと心乃凡情ハ小人と同しさ者多し。仏のを
発ふ衆とかるふ近し。とも仏者ハ又さるとちんのさら
ひさせ。ゆ〇むし　同日なてゆふ。近年少文学
こやうもぬこはば。ゆ書ふてを演ゆちんハ。まこ実よ仏道
ふ向うふちハまれなるとも。とろうこ乃文出るくいくなゆ
ねくハ。ひろうわゆうもをん　云これを傷者乃方よりひろ
発させうる也。周乃代の富をなり附乃礼とも来く。
後世乃貧令困窮の民ふくよ。多年乃附かん法とおて
事をげくハ。をてうちふなさ。先上世の氣力盛なるう
人のなくうる事と。ハ世乃おとろへうちんふゆうし。む光儀
うしふ。周の礼法よりるし先ゆ処よ。佛法後ろくく。喪祭九
小易笥ようく。賊周とりいやさ。事かくくく労せ。故より

寡くして信せざる者も。佛法をふかく。西方やをくして。都城
法いろ〳〵。凡民をも。と悦く。風よ者れ。たてまつること。公侯
大夫士をも人を。世ふひられて。色慢なく。儒道と行者。たゞ大
よ内外ありて。ろ者のをく行者をもつて。内外なきことわ
たくん。恥ある士を心労し。氣つを。賊をこそ行こそ。恥ある
く偽となんすとて。行ものを。仏法をふ入ぬをば。世あまこ
の憂なり。この故よ高さ人をこそ仏道よつく。儒道にて
外むきの事こそ。ねを。世よ明君良相あるとく。時運
のおとろえと。寡人氣乃とゞまることを。情のうすきこと
知。賊用ゐ不足ふけく。易簡れ礼法と作かし。誠をとろく
大古の質素ゐ風とくさゆ〳〵。高さをつゝ。こそ世の
仏道よまゝひ行ん。かくて時運も盛ふなると。人をを世

らく情をあらく賊用たるとあら時よ及く。後の君子と行
て。礼とおこさむ。すくく其人よあらされば。人情時変
とゝらん。有德よあらすして。法のをとおこ成とをば。
つをを大道乃為ふ仁義たふ合せねとをれぬ。よろくさる時へ
ぬをを国ふ〳〵をを及ん。英雄のふたよゆ〳〵そろをいつをを
おこるをすむるをと不安。何ををあるく。佛者ををるをを世
ををらん

一儒者云。邪をを信儒ををく。道と行をふ世をれを。勇をたの
為をくよなかををを。仏をを。と時道と行をを学をんとをれば。
内心を我くなをのあ〳〵出く。勇ををををするをんをはをと
思をく。凡情凡利乃欲たくまをくあるを。外ふ道をを
をを。をををぬをを仕をを。ふくををれ行をを。人よを者ををれ

分よりそんくうやまいれわらと收くゝ。糧と出し。外よ格法
と行者をあるゝ。氣根つゝくて。人乃せぬ事とすると自滅
てゝこゝゆくゝ処と行者をあるゝ。富有みくゝいと成ゝ氣力
つゝけまいぱゝと永く行ゝ行ゝを事しゝくて。
人乃なるゝゝさるゝもつゝきまゝ人むゝ人よのゝ世ゝ先ゝく。道者教
もゝ者をあるゝ。小学乃灑掃應對進退ゝ初ゝくゝふゝよ
せゝゝ者をあり。行ゝ人乃氣根つゝく大ゝゝくゝ天下
乃なゝゝゝとゝゝゝ。ゝゝゝ

いれば、奇特といひて、若云喪とりあつかふこと
人と二三人をこそ、それも無実の物二三人こそ
はべるめれ。それぞれ、なくなくのみ、なげかせ
わらはべ、気質よろしからんと、時々、ものの
あはれ、云々、文盲なり。物のわきまへ、なく、
凡夫なれども、親孝行なるもの、いとなめり。
奇特なる者、これ、いと質の愚なるもの、
世にいとまれなり。平ら喪とりと、先人、
なるもの、良ものいひ、物をかくのごとく記すべし。又、気質、
いつとも、無き者なるべし。壮年の気力つよく、志の大な
すんで、物のことをなすべき器量、壮年、さうの
なるべきなり。

一心友同貴老ねて親の喪とりと、先人と、彼、
意ならば、其、云々、喪ハ、なるものの、
者わり。若云、さつふ、とものり、
つとめ、生分ふわらはべ、これ、
て、後、幸もわらんか。十四、五、壮年の時、
ぢふへ、十、五、六、ものくつもむ、
喪にしたがひ、とわらんと、子細あり。その、
乃事のごとく、人は用わりくいひ、せ、その、
世よ、云益の男なれば、父母なれば、
人、なるもの、ものくなりて、
初、乃、対り、人の師となるもの、
用よりまさり、故、徳となるもの、

て知人なくハ。經傳よりの処。これ用ひまん事と形くるや
ハ天下に名をなしたる者。名をれハ世ろ名ゆメの君ふ喪よりも
むしろ。ハ人をもてりといつり。ハ也を一人の我士なり。ハ人の
ふ事とする。ハ子の業とは。世とゆく者なるよりて。ハ法よ
為て喪とハ用ひ。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
やうく死とハ。死とハ。ハく生を亡ハ。大不孝也。その上八十
ふ死をもて老父ハ。ハ人ハ用ひ。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
なるハ。ハ人を及行ひ。ハ也ハ。ハ法ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
ちく。喪とハ。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
て。勤ハ。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
やしく。器量をなく。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
笑ひく。後悔生ず。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ。ハ也ハ。ハ法ハ

ちなるもの。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
とつくるもの。氣質変化の者。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
をかくるもの。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
き人あり。共ハ。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
深情氣力ハ。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
とを。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
称ふ。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
ハ。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
ふ。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
ハ。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ。ハ也ハ。ハ法ハ
ハ。ハ人ハ。ハ也ハ。ハ法ハ。ハ也ハ。ハ法ハ

まゐりあはせてとくに人よ称ゑ世〳〵まこさ窄人のゐゑ六年ゐに
列下民の食ゆゑこそうすいてつものと食〳〵ぬゐみそとさ
ゐして汁者酒菜なく清水紙みをもめんぬのこゐく窄紙
ゐをさ衣食共よむ〳〵とわとれく書とたの〳〵みく居てりさ
その況なく八三年の喪心やとく法ら弟行〳〵と附勤先
そゐもといつ人すもこそえく世ふゐとうる事をなの〳〵ゐ
八非をなる八さやうよおとひく人乃生れ付の持力に強弱
ゐるゆとをもとうら決奇病病者をもつさゆ〳〵と年乃喪衰
とをいとに附弟のもうゐもむとるをいく人の傷乃うすく
ゐる素〳〵ゐるに八〳〵て行ゐ〳〵むゐ附八傷の端となり服ゐ
さ人よさびとつりくさゆとをんかへ〳〵病氣花衰の後よ
憂まゐひ其上文年〳〵情附弟と知とをもつ〳〵人とゐる

さゐ八年也おゆ孝世ゐ乃人〳〵とゐ乃ふ才知聰明なる人〳〵ゐ法
とゐ行ゐと不孝也不孝ゆゐく分別なさ者ゆ。篤実ゐ生付
ゐりて法とゐ行ゐとを知者ゐ知ゐ乃長〳〵ゐとひく人
ゐゐゐゐさとせ先己ゐ行ゐ乃長〳〵ゐとひく人〳〵ゐ
憂ゐく小ゐ乃日本ゐ代乃盛なゐ〳〵附。三年乃服と朝ゆ
〳〵其ゆゐゐゐ知八学ん〳〵ゐそゐゐて乃法ゐ乃と衰乃制
ゐり元水去ゐ乃ゐく乃義也上世ゐく乃日本八小也也小也ゆ
生れ乃者八精力ゐすく〳〵同〳〵ゐ乃同〳〵ゐ乃同〳〵ゐ乃学
力ゐく乃大国の人ゐ乃ひゐ乃〳〵

一　心変同。佛法八易簡なる処乃。日本ゐ水去ゐ遊法。ゐ
所世義ゐ乃とゐ乃大葬なるゐ八。悪不仁なり。親の骨を葬
ゐ乃ゐく。国の法ゆ。鰯とゐ乃ゐゐゐゐ乃也

若云ふ所のごとく我なくして我なくんば世間の人ハ世間の法の流世治乃ゐ
わくなんぞ我れハ我れ自身なり。又その時処に叶ふ所のごとく
ひとしかるべし。若人ハ世の勝ちけるくハ陶ふせくを可也
あるべくハ我除よりとひて。勇方立ち対ハ敵よ火うけ。英火れ
中へ服ふ。切腹入て死するハ義なり。敵乃ちふひくり。古
いまとくまを。指揮よハまされて。何そ外也と必ちせん
上世ハ去地廣くくんとくなるのるまでえいまこ黒物なく家屋
なるのるまでハ生くハ神ふもとみ死てハ若よ義を。他日
ちまとちまくれるふ無ひ去と法これと物へ。人ん死
ちるハ形ハ数ありて。魂気ちるれ地よ落ぬ。気ハ外よ
つて天よゆき。形ちは去よ合ひ。ほ乃常也。何そとて人後世
為物家屋いくまでまを。死とちるひを指揮ゐ揮ゐん

やくたふ合するハ理なれとも。死よ幸ることはるよ幸るまと
くとちるを孝子乃情なり。常ちるふ生とふ。安ちるふ死
とふと。死生一なり。憂ふ人乃情也。ゆゑ乃常也。ちれを別
をなげくハ人の情也。ゆゑ人ちなくハ去地ひろくくんちくなく。用れ
つ。又質素也。故よ指と地乃ことやちくして。おのちこれと
也。ゆゑ地ありてちの事処多くりき。後世ハ人の多か
乃ふちこひてた地せちく用たくしたかり多くして実ちくれ
し。常乃産ある者ちふを。指揮と作りにそえさる者ゐり。
況や民乃常の産ちき者ハ死のるひハちふなるまを
指作る事と憂ふ。乃ちるまと察せしてこれとひくせん
生乃道と作ちとふるハ不知也其ハかと不知ゆゑ。時処作よ
るちくかちるへき道理と安へどちりりき日本ハ近世人変

こと百こゝのせりまいりの人よ天地せさく用たゝす。庶人のすゝく
ハまさく衣なく。死ゝく棺なし。又葬礼をさ天地なきさ処わ
ゝ。火葬をゝ附りついゝよ當まり。天地ゝけくこのゝ。近
世ゝと人多ゝ地せゝ記事ハわゝ。氣運ゆさりゝらゝ
くゝり。附ゝ仏法わゝをゝ又多くり。火葬をゝ可也。この時
ふ當ゝ。礼の儒法と庶人まくふ行んすハ。聖賢の衣
出行ゝをゝ叶ゝべゝ。庶人をゝ附の衣食ゝふ居ゝ
屋をゝ風雨と物せくにゝ。農人ハ農業と勤ゝ。
町人ハ工商のゝゝのみゝれゝふ用にゝるいゝ。何のいゝ
わゝ。有終わゝ。葬祭の礼とおさゝんや。風氣運物
さゝりゝらゝ。人多ゝ々ゝ　云春の氣ハ温りく
悠こたゝ。鳥獸草木ゝ。異なゝ物のゝ生ゝ多ゝ

ゝゝゝ。三皇五帝三王の附のゝ。夏の氣ハむゝゝ
くゝ。多ゝ多ゝ生ゝ。ゝの附のゝ。鳥獸
奥草木の異なゝハ用ふのゝ。ゝふゝ。夏の制禁
ありくぶなゝあゝねく用ひゝ。殷の氣ゝれ氣の生
すゝ物ハ用ゆゝゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。

毒うこと。若云儒道といふこと。道のすたれしるなる也。大道とハ名なく定法なし。天地の神道ハ時ふ中にて行と也といふ処なり。毎〻天理の減乃ことを考て法とす。幸に法を可也。必ことなし。自然乃勝ハ法也。同貴殿親乃葬礼ふ。儒法の棺となりてあり。くるしりをふいふ。若云ふ棺作るべきかあり。処よさりなり。兄弟明友らちまちく助なり。賊ハ利人をみさるもの。儒法なるもあきふ。何を用ひさんや。或ハ附物のかりこれよりあるく。或ハ助ることなく。賊をなさよりあるくなるべん。或ハ親をうて他をそ〻ぬとなりきと云のこと也。あくハ生る親ハ美肉多と食せ〻めすして。祖食と作ることを不可也。読食中ハ若て

あこハぬ物ハと求ることを不可也。同世間ハ有ることを不可也。己の好を処よ。ゆくことをせんとすの作なる事ハさるもあ日なり。乃神道ハ色板棺と用て宮社ハ作ると。棺と用く棺槨ハ作るべきんえ作ることハ火葬のるハなし。仏者ハ土葬をとる。くいるしむることを作されハ去のひさる公あり。若乃葬ハいかゞ作るんや。若云神書ハ棺と棺槨ハ作ることあることを。上世枝木沢山ありくなるもやをとるし。附の事也。ことを士ハ人ハ者あり。貴人ハ。貴くことを二分三分の板と用く。棺作ることハなり。貴し。其日とるの者ハいくでなるさや。火葬ハ悪ひさる者ハむしろと用て求ることを。貧ハ乃形とおさあくべきむしろハ可也。回富ハ者ハ棺と用ひ。貧ハ者ハ。親ハ者とすることを。貧ハしくハなるくぬ事乃恨をあるくさる。若云理

とも〻〻先ものうらみもなうて。死とゝいふのゝちなり。
附乃飲食衣服。家屋器物等よ。おもゝく。富貴貧賤命
夭なり。うゝ〻しく。況や酔ゝ飽ゝ合する事。理乃常也。志
ゝ〻くれぬゝ。若乃情なり。情と。何ぞ夫あん
其上日本ハ仏地せゝ。さう故よ。近比まゝく寺なゝ。法ゝ屋
数〻なり。富ゝなゝの多〻。百年の間ハ。人ゝ。うゝ
ふゝ。ぬゝ。やゝ行て。ゝなゝ。楽後乃憂なゝ。ゝ
一心変同。ゝ発男女ゝ〻。ゝゝ。ゆゝ〻。ゝ上中江氏ゝ其
理得ん。なゝて。男女と戒られ。ゝ。ゝ。ゝ

たゝかひんや。中江氏たゝく後。友樹に遊てうんと。其男女
とゝてゝゝて。不義なりといふて。其氏子のところをゝます
ゝば。あなたざまにゝかなとゝばゝたゝあやうも有べきふいまゝ幸
ゝうく。来屠をくかるゝゝゝゝ。ゝゝ十家の氏ところ
ゝゝゆるされハせた。退るハ無用れるゝ也と申しゝ也。それハ事の
ゝたいてゝゝ門志中まて。云ゝる事をわりゝ。其実と不和人ハ
ゝゝとゝゝゝゝゝと申ゝゝゝ。ゝゝ人ゝゝゝ。ゝゝよ世ゝゝゝ違ゝゝく。此
学流乃天禁となるゝゝゝゝゝふゝゝゝゝく英才ゝゝゝ養ゝ
ゝゝ。道学乃流行と申ゝゝゝゝく。適ゝゝゝゝ。大禁ゝゝハゝゝゝ。
大害となるゝゝゝ。大道乃行るゝゝゝ。千歳の後よおくれて発
ゝゝゝゝゝ小飛ゝゝゝゝゝ

かゝはすして英明なる而と称して。道とさうするは河のあさうとさうかとの〜〜。如せて色〜〜さうがあて〜〜。其後ハ河の〜の如く流と知て。格言〜〜。一言乃禁戒と用色〜〜。其大道の行るゝ人ハ安道ハ入ると出んなら色〜〜。

ゝるゝ以英才ハ人〜の信ハ義〜。道とさうざかう人習者と成〜。不義とさらしらんこのむすと外ると退けらちむ。其人ハ世ハ新〜〜。味方多〜。まりの学者のつゝ〜〜るハ一流ハ〜〜〜

孝ハ父母ニ事ル子ノ道。弟ハ兄ニ事ル弟ノ道。信ハ朋友ノ交ノ道。諸ノ人倫ノ道ニ於テ、ソレ〳〵ノ人ノ事ヲ行フ小行ノ不義ナル〳〵ハ何ソ其者ノ語ヲ見テ堅固ニ信ヲ付ケラレンヤト世ノ小姓ヲ召シ使ヒテ、ソレ〳〵ノ者ニ問ヒ、ソレ〳〵ノ者ニ答ヘテ、ソレ〳〵ノ者ニ対ヒ、ソレ〳〵ノ者ニ交ル。ソレ〳〵ノ者ニ対ヒ、ソレ〳〵ノ者ニ交ル。其ハ其ノ身ヲ慎ミ、人ヲ愛シ、命ヲ敬ヒ、分代ヲ考ヘ、ヤハラカニ、ハ壮年ノ精気ハ、情欲盛ニシテ、この教ヘ法度ノ外ノ男女ハ、若又モ、ゆるセバ、不知禁ノ大方世ノ法度ノ道ノ知者仕ノ義ヲ、ヒトヘニ、ヒトヘニ、ソレ〳〵ノ用心ヲ、ワレ〳〵ノ也。故ニ、ヨウ〳〵ノ悪ヲ、ヒトヘニ、人ヲ、ヒトノ〳〵ニ、ヒヤ〳〵カヲ、ヒヤ〳〵カヲ、ヒヤ〳〵カヲ

と成べく。公用軍役たゝかひあるべき者多し。そ[illegible]と飛火
制をもうけ。世ろふこゆるの害なり。男女とも飛禁せんとすべこの
法なるもわく。流佐はまうもせ玉時ともすれば三十歳若法ま
ても。嘉妻なき者多し。人の父母なり。家とおのづから年ふるく
本書あるべ。ゆわるく母うく教ようし。家名しかんぞ乃ちんくる
しかるに男女とゆるされくなんるゆゆるべ。母くの事やれハ精
力をぐまぞ。病者となるかくるゆゆるべ。すぐ陰陽和合の道う
わるべとゆゆるもせ。むかゞくいとく。害もなるべし。女をれ
るるるパうこなひわまるなれども。陰陽の理なりといんのを
ゆるくるるもあるパ理をもつひるべかんう。横逆いつもた分ぐを
し。佐はをるるくとるゆゆるの横とをるのみ。女をるるるかも
ゆるされど。男をもゆるされを。二ぐゆるされるゆ時パ。聖て

用佐はまうもせハ可也。同ちるくバ学者乃男を乃年も。男をことの
せくべるくざるう若云。世ろの若年ぬさんなる者乃ぬいまし
光かるれと云パ。道藝をもろと用られも。道藝をも乳と
用くぬいとれ物なを附ハ年ゆるくるを若ハ自ゆ[illegible]やを
しぬんとるれど。水乳多くて。央をりぬ。其上かんぬんの
精つよし。其精と道藝を用くぬいとゆるもしを。ゆるれく
をこうれをのなりぬ。ゆくをるやをるれ男一なり

集義外書卷之十終

外書卷之十　〈脫論七

三十終